

公園の風景

= 保護ケージ間もなく完成 =

毎年秋に北朝鮮からやって来て翌春に帰っていくクロツラヘラサギ、近年増えたとは言われながらも世界に約 4000 羽しか生存しない珍鳥であり、クロツラヘラサギネットワークという団体が調査・保全活動をしている。しかし越冬中に思わぬ事故に遭遇したり病気になったりする事例の報告もあとを絶たない。そこでNPO野鳥やまぐちでは、去年より葦の会をはじめ8団体の協力を受けて傷病クロツラヘラサギ保護のための「クロツラプロジェクト」を立ちあげていた。このたびサントリー世界愛鳥基金の助成を受けて傷病クロツラヘラサギを収容する保護ケージを建設することとなった。保護ケージは幅 20M、高さ 3M、奥行き 16M。8月上旬にはほぼ完成し、付帯設備が整えば即、傷病クロツラヘラサギを収容可能となり、保護・リハビリの要請に備える。

= 子どもレンジャーが行く② =



子どもレンジャークラブの7月のテーマは「干潟のカニを探そう」でした。子供たちはレンジャーから簡単な説明を受けたあと、長靴に履きかえ観察ホール前に広がる干潟に入りました。さまざまなカニをセンターに持ち帰りました。捕まえた珍しいカニの自慢をしたり名前を聞いたりしながら種類分けした後、めいめいがカニの図鑑を作成しました。

= キジバト またまた残念!! =

園路への入り口の木々の茂りを利用してキジバトが営巣し、7月22日には抱卵中でした。ハトの繁殖期は春から秋にかけてですが、ハトは子育てに際し雛の成育に重要なピジョンミルクを雌雄で与えるので成育が早いそうです。産卵後 15 日くらいで孵化し、さらに 15 日くらいで巣立ちます。今春二度も同じ場所に営巣・抱卵しましたが、天敵のカラスにでも襲われたのか、一度目も二度目もいつの間にか所在不明になっていました。今度こそは無事に雛が巣立てるよう、と願って見守っていましたが、三度目も7月29日気づくと巣はカラになっていて、ヒナの誕生とはなりませんでした。残念。